

1 単元名 読んで考えたことを伝え合おう「ごんぎつね」

2 単元の目標

中心人物とほかの人物との関わりについて考え、感想を伝え合うことができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元における重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つこと。」である。また、C(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。」も指導していく。

本単元では、「ごんぎつね」を読んで考えたことを伝え合うという言語活動を設定している。読んで考えたことを友達と伝え合うには、内容を的確に捉えて自分の言葉で表現する必要がある。必然的に、物語をより深く読み込むことになる。

本教材は、ごんと兵十の関わりによって展開していく物語である。時と場所によって場面が分けられ、ごんの行動を中心に読むことで、始まりと終わりを比べてごんの心情の劇的な変化を捉えることができる。また、物語の結末に対し、児童一人一人が自分なりの考えを持ったり、多様な感じ方をしたりすることができ、児童が学びの充足感を得ることができる。「読むこと」の力を身に付けるのに適した教材である。

(2) 児童観

2学期実施「学習に関するアンケート」質問項目	肯定的に答えた児童の割合
国語の学習は好きですか。	82.6%
本や文章を読むことは好きですか。	95.7%
本や文章を読んで書かれていることが分かりますか。	100%
物語を読んで、登場人物の気持ちを考えることができますか。	82.6%
友達に「分からないところを教えて」と言えますか。	73.9%

男子〇名、女子〇名の学級である。本学級の児童は、地域ボランティアの読み聞かせや図書室での貸し出し、移動図書館の巡回といった本や文章を読む活動を楽しみにしている。実態調査の結果からも、読書に親しみ、文章を読むことについて肯定的な思いを持っている児童が多いことが分かる。4月から行ってきた取組により「本や文章を読んで書かれていることが分かりますか。」について全員が肯定的に答えた。9月単元「一つの花」の学習中の発言や毎時間の振り返りを見ても大体の児童は物語の内容を正確に捉えることができていた。「物語の内容が分かる」という自信が付いた今だからこそ、物語を何度も読み返す面白さに触れさせたい。

(3) 指導観

そこで本単元の指導にあたっては、ごんの視点で学習を進め、全ての場面の学習を終えたところで兵十の視点から物語を読む活動を取り入れる。別な人物の視点から物語を読み直すことで、これまで深く考えていなかった内容への気付きや、物語全体を通して持つ感想に変化があるという体験をさせたい。加えて、最後の場面を読んだ感想を伝え合うために、物語全体を通して登場人物の気持ちがどのように変化してきたかを読み取るが必要になる。登場人物の気持ちの変化を正しく捉え、より具体的に想像するために、以下のような手立てを講じる。

①キーワードになる文章の提示

登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを捉えやすくするために、ごんと兵十の気持ちが表れている文章を抜き出し、色を付けた短冊にして提示する。その際、教師主導にならないように、児童との対話を通して抜き出すように留意する。

②登場人物の行動の確認

登場人物の気持ちの変化に関わる行動と動線を捉えやすくするために、ホワイトボードを使って、児童とやり取りしながら登場人物の動きを確認する。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、文章の中で使っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習したことや読書経験を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、粘り強く感想や考えを持ち、伝え合おうとしている。

5 単元の指導と評価計画（本時 11 / 14）…別紙

6 本時の指導について

(1) 本時の目標

兵十の視点から第八場面を読み、兵十の気持ちについて考えることができる。

(2) 指導に当たって

①校内研究の視点

【視点1：単元全体の見通しを持った授業づくり】…別紙「学習計画表教師用」

【視点2：授業の視覚化・共有化】

- 登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを捉えやすくするためのキーワードになる文章を、拡大して掲示する。
- 登場人物の気持ちの変化に関わる行動と動線を捉えやすくするために、登場人物の位置関係を表したホワイトボードを提示する。
- 意見を共有する際に「似ている・違う」などの聞く観点を示し、友達の意見に対し、共感・納得・驚き等を表すコメントを返す。

(3) 配慮を要する児童（A児）の実態と手立てについて

書字を伴う活動と、話している人に注意を向け続けることに困難さを持つ。指示を聞き逃してしまうことが多く、活動の取り掛かりが他の児童から遅れることで集中や意欲が削がれる。個別に声を掛けたり、事前に一对一で活動を説明したりすることで学習活動に集中できるようになる。また、本児が「話すことは好き」と感じているため、集中が途切れそうなタイミングで発言の機会を設けることが有効である。国語の学習では、書字の分量が多くなってきたことと、使用する漢字の難化に伴い苦手意識を持つ様子が見て取れる。A児のために、以下のような手立てを講じる。

	対象児の実態	視点の手立て
視覚化	・教科書の本文から、指定された文章を見付けることが苦手である。	・発問に関わる文章を短冊にして掲示し、視覚的に今何を考えているかを把握しやすくする。
書く活動	・板書と対応させながらノートの行を空けて書くのが苦手である。 ・字形が整わず、多くの文字を書くことに抵抗があり、苦手である。	・書く内容を精選し、教師が支援を加えたノートを使用させる。

(4) 評価の観点

	本時の具体的評価規準	十分満足できる児童の姿	満足できる児童の姿	努力を要する児童への手立て
思考・判断・表現力	兵十の視点から第八場面を読み、兵十の気持ちを想像することができる。	兵十の気持ちと、そう考えた理由を具体的に捉え、考えた内容について進んで友達と交流している。	兵十の気持ちと、そう考えた理由を具体的に捉えている。	・個別に教師と対話する。 ・友達の考えを参考にしようと言言する。

(5) 準備物

児童：教科書、ノート、学習計画表、筆記用具

教師：教科書、デジタル教科書、黒板掲示物、掲示用挿絵、ホワイトボード

(6) 指導過程…別紙

(7) 板書計画

読んで考えたことを伝え合おう。

ごんぎつね

兵十の視点から物語を読み直そう。

④② こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしにきたな

ぬすとぎつねめ
うなぎのこと これまでのいたずら
きらいにくたらしいやだ

「ようし。」
↓うってやる。しとめてやる。

くり↓
ごん…つぐなうため
兵十…あわれに
思ってくれる
神様のしわざ

④④ 土間にくりが置いてあるのが目につきました。

びっくりして
↓くりをくれたのは神様じゃなくて
ごんだったから。

④⑥ ぱたりと、取り落としました。
↓おれのためにいつも持って来てくれたのか。なんでもかしてしまっただんだ。うたなければ良かった。

◎ 気付かなかった 後悔

(6) 指導過程 (本時 11 / 14)

段階	主な学習活動と活動形態 主な発問・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ※個別の支援 【】 視点	[] 評価・方法
導入 4分	1 本時のめあてを確認する。 兵十の視点から物語を読み直そう。	・児童が本時の学習の見通しを持つことができるように、拡大した学習計画表を提示する。【視点1】	
展開 33分	2 41段落から44段落までを音読し、兵十の行動から兵十の気持ちの変化を考える。 うちの中へ入るごんを見たとき、兵十はどんなことを考えましたか。 ・こないだうなぎをぬすみやがったあのごんぎつねめが、またいたずらをしにきたな。 兵十はごんのことをどう思っているでしょうか。 ・きらい ・にくたらしい ・うなぎのことや、前もいたずらされていたと思うから嫌な相手だと思っている。 「ようし。」と言ったときの兵十はどんなことを考えましたか。 ・撃ってやる。 ・あのいたずらぎつねを仕留めてやる。 ・今回は逃がさないからな。 「おや。」といった兵十はなににびっくりしたのでしょうか。 ・くりかな。 ・ごんにびっくりしたのかな。 ・ごんがくりを持って来ていたこと。 なぜ兵十はごんがくりを持って来ていたことにびっくりしたのでしょうか。 ・どうしてだろう。 ・ごんは悪いきつねだと思っていたからかな。	・ごんと兵十の位置を明示したホワイトボードを用い二人の動きを全員で確認する。【視点2：視覚化】 ・兵十の行動を表す文章や、気持ちを考えるキーワードとなる言葉を児童とやり取りをしながら確認し拡大したものを掲示する。【視点2：視覚化】 【A児】 ※着目する文が見付からず落ち着かない場合は、注目する教科書の範囲を限定して伝え、キーワードになる言葉を探させる。 ・「またいたずらを」から、第一場面「いたずらばかり」と第二場面のうなぎを取ったいたずらについて想起させる。 ・第二場面「ぬすとぎつねめ」以降兵十のごんに対する気持ちは変化せず、「ごんぎつねめ」と強い言葉になったことをおさえる。 【A児】 ※友達の意見を聞いたり自分が発言したりすることに集中できるように、書く内容を精選し、教師が補助を加えたノートに書かせる。 ・ホワイトボードで2人の位置を確認しながら「なぜ兵十はかけよったのか」を問い、「確実に仕留めたかを視認するため」をおさえ、この段階までの兵十のごんに対する気持ちを全体で確認する。 ・「ごんに驚いている」という読み方をしている意見についてはこれまでの叙述と、ホワイトボードの二人の位置を手がかりにして修正させる。 ・すぐに意見が出ないことが予想される。少し考える時間を取り、次の補助発問へとつなげる。	

	<p>二人にとってくりはどんなものでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごんにとっては償うためのもの。 ・兵十のために持って来ていたもの。 ・兵十にとっては、自分をあわれに思ってくれている神様がくれていたもの。 <p>なぜ兵十はごんがくりを持って来ていたことにびっくりしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神様がくれていると思っていたのにごんだったから。 ・まさかごんがそんな良いことをしているなんて思わなかったから。 <p>4 第八場面の終末を音読し、兵十の気持ちを考える。</p> <p>火縄銃をばたりと、取り落としたりしたときの兵十の気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おれのためにいつも持って来てくれていたのか。 ・なんてことをしてしまったんだ。 ・うたなければよかった。 ・おれはなぜ気付かなかったんだ。 <p>5 自分の想像したことを伝え合う。(グループ)</p> <p>自分が想像したことをグループで伝え合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕の想像した気持ちと似ているな。 ・私とは違う気持ちを想像したんだね。 <p>6 考えを共有する。(全体)</p> <p>兵十はどんな気持ちだったと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるほど。そういう気持ちもあるんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「兵十にとってのくりがどんなものか」についての意見が出ないことが予想される。P46の加助と兵十の会話を提示し、兵十にとってのくりが「不思議なこと」から「自分を哀れに思ってくれている者からの贈り物」という認識に代わっていたことを想起させる。 ・くりと神様について整理した後、再度同じ発問をし、児童の意見を板書する。 ・次ページ「ごん、おまえだったのか。」とつながることを確認する。 ・座ったまま取り落とす動作をさせ、「落とす」と「取り落とす」の違いを捉えさせる。 ・ノートに記入する前に相談の時間が欲しい児童に声を掛け、短く相談させる。 <p>A見</p> <ul style="list-style-type: none"> ※何について考えて書くのかを個別の声掛けで確認し、兵十がどんな気持ちだと思うかを友達と話させる。話したことを基に書きたい内容を教師と一緒にまとめ、ノートに記入させる。 <p>意見を共有する際に「似ている・違う」などの聞く観点を示し、友達の意見に対しコメントを返す。</p> <p>【視点2：共有化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ※書ききれなかった児童は、途中まででもよいことを伝える。 <p>A見</p> <ul style="list-style-type: none"> ※自分の考えを、自信を持って話すことができるように励ます。友達の考えを聞いた後に、集中して聞くことができたか確かめるために簡潔に内容を繰り返させる。 ・ノートの余白に友達の考えを書き足しても良いことを確認する。 ・児童の発言後、「似ている人はいるか」を問い意図的指名を行うことで、後悔や「ごんに生きてほしい」という兵十の気持ちを整理していく。 	<p>[思：兵十の視点から第八場面を読み、兵十の気持ちを想像することができる。]</p> <p>ノート・発表</p>
<p>終末8分</p>	<p>7 本時の振り返りをする。(全体)</p> <p>兵十の視点から物語を読み返してみようでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵十もいろいろな気持ちを持っていたということが分かった。 ・最後の場面は撃たれたごんだけでなく、撃ってしまった兵十もかわいそうだった。 ・二人とも幸せになってほしかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数人に発言させてから今日の学習したことを踏まえて、第八場面を全員で音読させる。 ・学習計画表に記入させる。 ・児童が今後の学習の見通しを持つことができるように、拡大した学習計画表を提示する。【視点1】 ・次時の活動内容を簡単に予告することで、本時でうまく言い表すことができなかった感想をまとめる機会があることを伝える。 	